

1. はじめに

テーマを「告白」というスタイルを用いた効果と問題点にした理由は現代国語の授業では登場人物の心情や本文が示していること何か、といった内容のものがほとんどだったので今までしたことがない本文の形式について考えようと思った。

結論として「舞姫」は告白というスタイルにしたからいい作品になったと思う

2. 本論

「舞姫」において告白というスタイルをとったことで乗じる効果はなんといっても豊太郎の苦しみや場面ごとの心情を的確に表現できる事だと思う。何故なら p264 L 2にある（腸日ごとに九回すともいふべき惨痛を我に負はせ）を初めとする豊太郎の心情の表現は豊太郎が書いているという形式にしたからこそ生々しく感じる事ができるからだ。この文が仮に同行している人が書いたものだとしたら他人の心情を本当に理解しているか、それが正しいものか、といったことは不明瞭になってしまう。

この点から「告白」というスタイルによって生じる効果はそれをしている人物自信の心情などを正確に表現できることであるといえる。

しかしそのスタイルだからこそ生じる問題点もある。

それは豊太郎の視点で書いているので仕方がない事ではあるけれど豊太郎がいない場面での豊太郎が居ない場面での出来事や他の人物の心情があまり分からないである。

豊太郎が居ない場面というのは p274 にあるエリスの家でのエリスとエリスの母との会話や p297～298 での相沢がエリスに真相をいう場面のことである。

一つ目はともかく二つ目はとても重要な場面であるにもかかわらず豊太郎は寝ていたという理由で詳しいことはほとんどかかれていない。もしもこの場面での雰囲気や細かい会話エリスの変化などが書いてあったらよりおもしろいものになったのではないかと思う。次の豊太郎以外の人物の心情が分からないことについても豊太郎の視点で書いているために仕方が無い事ではあるが先ほど書いたのと同じように各場面における他の人物の心情が分かるとおもしろいのではないかと思う。

3. まとめ

結論：中心人物である豊太郎の心情が一番わかりやすく表現するには「告白」というスタイルにするのが一番適していると思う。ただ話は豊太郎は豊太郎を中心にしかかけないために他の人物の心情はわかりにくくなってしまふ、また個人的には気になる相沢が真相を言う場面があっさり流されてしまふてその場面のことがほとんど分からなくなってしまふている。

ただその分読む人によっていろいろな解釈ができる。また今回のテーマには関係がないが情景描写においても様々な解釈ができるようになっている。つまり「舞姫」は告白というスタイルにしたことで中心人物である豊太郎の心情が分かる。その分生じる問題点もあるが読む人によって様々な解釈ができるように文章ができているので作品の世界が広がるのでその問題点も補えていると思う。

以上のことから「舞姫」という作品においては「告白」というスタイルにしたからいい作品になったと思う。

反省：相沢がエリスに真相を言う場面で豊太郎を立たせなかった理由というのをもっと

考えることができればもっと深い考察ができたのではないかと思う。もっと多くの長所や短所が見つけ出せると良かった。

参考にしたもの

舞姫（教科書の本文）

「舞姫」現代語訳（インターネットから）